

## 石狩浜漂着物考古学ノート2

### 石狩浜・石狩川河口に漂着した陶磁器

Ishikari Beach driftage archeology note 2

Ceramics drifted on Ishikari Beach and the mouth of Ishikari River

木戸 奈央子\*・石橋 孝夫\*

Naoko KIDO\* and Takao ISHIBASHI\*

#### はじめに

北海道石狩市の石狩浜や石狩川河口には、一年を通じて様々な漂着物があり、その中には陶磁器も見られる。これらの多くは、本町地区・八幡町地区の河岸の地層から流れ出たと考えられる。本稿では、平成22（2010）年から約3年間にわたって採集した漂着陶磁器を中心にその詳細を報告し、あわせて石狩市内で表面採集した陶磁器や厚田区聚富漁場跡出土の資料も紹介する。

#### 採集場所と時期

本資料は全て石橋が採集したもので、そのうち漂着した資料は平成22（2010）年6月から平成25



図1. 資料の採集エリア 位置図（国土地理院5万分の1地形図に加筆）。

（2013）年11月までにビーチコーミングの際に採集したものである。ビーチコーミングの主な場所は、石狩浜と石狩川河口の両岸で、表面採集資料は平成25（2013）年10月に弁天町の住宅地で採集した（図1）。採集時期は一年を通して主に毎週木曜日と金曜日で、土日祝日にも行った（冬期である12月～3月は不定）。また、海水浴シーズンである6月末から8月に関しては、漂着物も少ないため、ビーチコーミングは行っていない。聚富漁場跡の資料については、周辺住民から寄贈されたものである。

#### 資料について

漂着した陶磁器片は、陶器が113点、磁器が56点、土器（素焼製品）が3点の計172点で、弁天町で表面採集した陶磁器片は、陶器3点、磁器4点の計7点である。合計179点のうち、本稿で資料化したものは、磁器が30点、陶器が31点、土器（素焼製品）2点の計63点である。その他に、厚田区聚富の聚富漁場跡から出土した完形品の越後産焼酎徳利1点と、石狩浜に漂着した根付1点を加えた計65点を本資料とした（表1）。器種ごとに見ていくと、焼酎徳利やコンプラ瓶を含む徳利類が32点と最も多い。次いで碗・皿類が22点、鉢・甕類が6点、急須などを含むその他が5点である。

徳利類で一番多く見られたのは越後産焼酎徳利

\* いしかり砂丘の風資料館 〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

である。小破片なども含めると70点程が漂着している。No.64の焼酎徳利は完形品で、昭和46（1971）年11月に厚田区聚富の聚富漁場跡から出土した（図3）。厚田の漁場に関する最も古い記録は文化3（1806）年の遠山左エ門尉による『遠山村垣西蝦夷日記』で、「シュップ、シリアツカリ、モウライ、此所三ヶ所鮭の漁小屋並蝦夷家も相見申候」とある（藤村，1995）。弘化3（1846）年の松浦武四郎による『再航蝦夷日誌』には、シュップ（聚富）、浜中（中浜）、シリアツカリ（知津狩）、フラトマリ（無煙）の地名が記されており、シュップには番屋が、浜中とフラトマリには秋味小屋があるとの記録がある（藤村，1995）。明治4（1871）年頃の『厚田全郡漁場図面第十六号』には漁場名として聚富と知津狩が記されており（谷内，1969）、明治13（1880）年の『明治十三年石狩川鮭漁獲漁具一覧表』には漁場区域として聚富、中浜、知狩（知津狩）が記されている（石狩町，1985）。明治29（1896）年の『厚田郡漁場全図』には聚富や知津狩の名は無く、字霧煙（無煙）が記されている（谷内，1969）。これらの文献にある聚富（シュップ）は大きな鮭の漁場があった場所であり、多数の陶磁器が出土している聚富川口遺跡の場所と一致する。いずれの文献からも聚富から中浜、知津狩、無煙にかけての一带は、江戸時代後期から明治期にかけて鮭漁の漁場であったことがわかる。ただし、聚富漁場跡については未調査であり、出土が確認されているのは焼酎徳利1点のみであるため、今後の調査が必要である。

コンプラ瓶は漂着が1点、弁天町での表面採集が1点の計2点である。2点とも文字の部分が欠損しているため、詳細は不明である。そのうち漂着したものについては、幕末の資料と比べて割れ口が新しく、胎土の色も明るいため、現代に作られたものと考えられる。もう1点は、弁天町の高島晴信邸跡から採集したものである。高島晴信は弘化元（1844）年生まれ、漁業家で、出身は渡島や陸奥などの記録がある（註11、12）。官軍として戊辰戦争に加わった後、明治元（1868）年5月より

函館裁判所文武方所属となり、明治2（1869）年6月からは石狩に赴任し、明治7（1874）年まで勤務した経歴がある。

碗・皿類はほとんどの資料が、コバルトを用いた型紙摺りや銅版転写といった装飾技法で作られており、これらは明治以降のものである。碗類では、数点だが幕末までさかのぼる肥前系地方窯の資料が見られた（図2）。

No.65の根付は平成22（2010）年6月に石狩浜に漂着したもので、鹿の角を加工して作られており、エゾシカの角と考えられる（図4）。年代などの詳細は不明であるが、加工品として貴重な資料である。

## まとめ

採集した陶磁器はほとんどが石狩浜と河口兩岸に漂着したものであり、破片の大きさはおおまかに採集場所が河口付近のものが大きく、河口から石狩湾新港方面、または厚田方面へと離れるにつれて小さくなる傾向がある。

資料から採集エリア周辺地域の街の形成時期について考察する。本資料では時代が古いもので幕末の碗類があった。また、対岸の八幡町若生にある若生C遺跡出土資料を見ても古くは幕末と考えられる（木戸・平河内，2013）。聚富川口遺跡については詳細が明らかではないが、18世紀中葉頃まで遡る皿が数点見られたほかは、幕末から明治期にかけての資料が中心であった。しかし、江戸時代後期には、河口左岸の本町地区は場所経営の拠点であり、既に街は形成されていたと考えられる。この地域に幕末以前の資料が少ない要因として、人々が定住し始める時期が挙げられる。河口の右岸に人々が定住し始めるのは、若生に役所が移された幕末以降であり、河口左岸も含めてそれまでは鮭漁の時期になると人々が集まるという季節性の特色が強い地域であった。したがって、食器などの陶磁器の出土数も少なく、街の形成と資料の年代に差が生じたと考えられる。ただし、本資料と若生C遺跡出土資料は資料数がそれほど多

くはないため、膨大な資料がある聚富川口遺跡についての詳細が明らかとなった後に、再考する必要がある。

人々が定住し形成された街並みは、その後も河口両岸を中心に形成を続け、その変遷とともに堆積した地層が川に削られ流出し、本資料が浜辺や河口に流れ着いたと考えられる。陶磁器の断面が摩耗しているものは極わずかしかなことから、その他の遠く離れた地域から流れ着いたということは考えにくい。また、河口右岸採集の資料については聚富川口遺跡と場所が隣接しているため、遺物である可能性も考えられる。

この種の漂着物は、その周辺の人々の暮らしや当時の物流などの歴史を伝えるものであり、また遺跡の所在を確認出来る資料でもある。漂着する時期は様々で、場所も広範囲に及ぶため、今後も注視して採集していく必要がある。

**謝辞：**本稿執筆にあたり、陶磁器の産地や年代について北海道埋蔵文化財センターの鈴木信氏、松前町教育委員会の佐藤雄生氏にご教示をいただきました。深く御礼申

上げます。また、日頃よりご協力いただいておりますいしかり砂丘の風資料館の職員の皆様に感謝申し上げます。

## 註

- [1] 「履歴書（高島晴信）」『高島家文書』（いしかり砂丘の風資料館蔵・TI-175）
- [2] 河野常吉 「石狩古老三名の談話（明治三十六年五月）」『石狩場所、札幌市街、石狩町資料』（北海道大学付属図書館北方資料室蔵・別 951.4Kon）

## 引用文献

- 藤村久和，1995．文献に現れた厚田村Ⅰ，Ⅴ「弁財船」と厚田村．厚田村・厚田村教育委員会．
- 谷内鴻，1969．明治以後のこと．厚田村史．厚田村．
- 石狩町編，1986．石狩町誌中巻Ⅰ．石狩町．
- 木戸奈央子・平河内毅，2013．石狩市若生C遺跡の出土陶磁器について．いしかり砂丘の風資料館紀要，3：1-10．

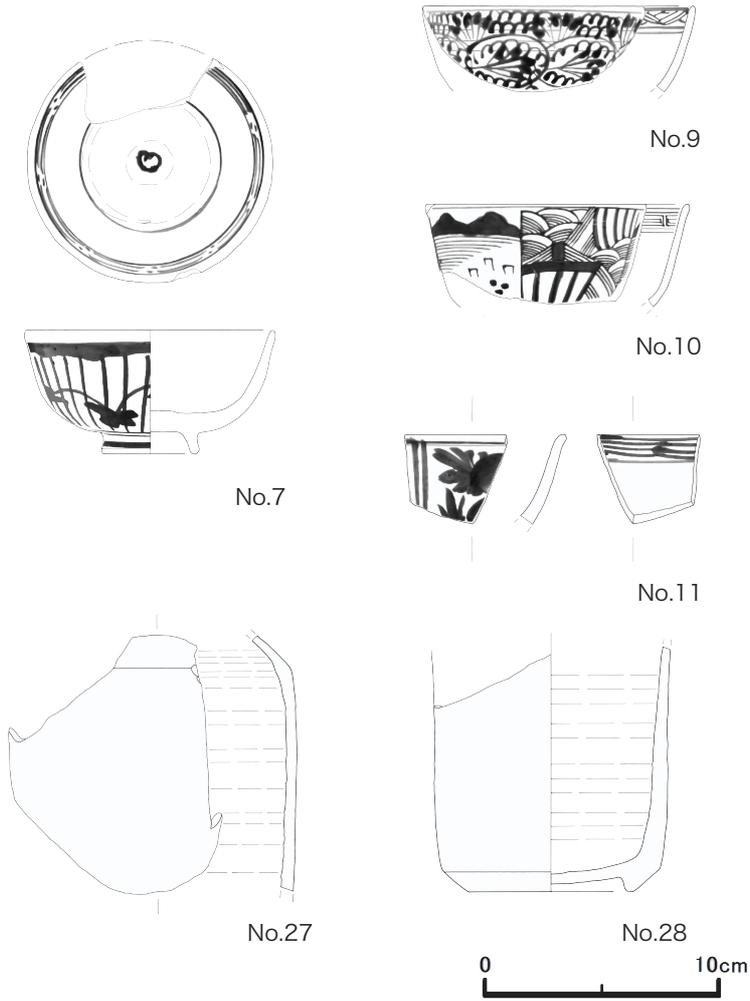


図2. 漂着陶磁器実測図 (No.28のみ弁天町表採資料).



図3. No.64 聚富漁場跡出土品.



図4. No.65 石狩浜漂着の根付.



図5. 漂着した陶磁器 (最上部左のみ弁天町表採資料).

表1. 漂着陶磁器・弁天町表採陶磁器 観察表.

No.	器種	法 量			装飾技法	採集場所	備 考
		口径	底径	器高			
1	小杯	6.4		4.3	手描き, 高台柳歯文	石狩浜	磁器
2	小杯	6.6	3.3	4.8	銅版転写, 花瓶に花・果物, 高台内銘「居■」	石狩浜	磁器
3	小杯	6.6	3.2	3.9	手描き, 笹文様, 蛇ノ目凹型高台	石狩浜	磁器
4	碗	10.9	4.1	6.0	手描き, 松文様, コバルト	石狩浜	磁器
5	碗	9.9	4.1	5.7	手描き, 草花文様, 口縁内雷文, 見込松竹梅, コバルト	石狩浜, 石狩川河口	磁器, 採集場所が異なる2破片が接合
6	碗	10.6	3.6	5.1	手描き, 見込・外面ともに文様不明	石狩浜	磁器
7	碗	10.5	4.0	5.3	手描き, 蝶文様, 見込蛇ノ目軸刺ぎに白い塗りあり	石狩浜	磁器, 幕末か, 肥前系地方窯
8	碗	10.2	3.4	5.6	型紙に吹墨(スプレー), 鶴と月文様	石狩川河口	磁器
9	碗	11.5			外面唐草文様, 口縁内四方禪文	石狩浜	磁器, 幕末, 肥前系地方窯
10	碗	11.2			外面交互に繰り返した文様(一つは波と舟?) 口縁内雷文	石狩浜	磁器, 幕末, 肥前系地方窯, 被熱あり
11	碗				外面花文様	石狩浜	磁器, 口縁部, 幕末, 肥前系地方窯
12	碗				口縁内雷文	石狩浜	磁器, 口縁部, 被熱あり
13	碗				型紙摺り, 桐文様?, 口縁内輪宝	石狩浜	磁器, 口縁部, 被熱あり
14	碗	11.1	4.4	6.1	型紙摺り, 見込松竹梅文様, 口縁内輪宝	石狩川河口	磁器, 型紙摺り失敗の跡がある
15	碗		4.1		外面型紙摺り	石狩浜	磁器, 底部
16	皿				文様不明	石狩浜	磁器, 口縁部, 被熱あり
17	皿				内面型紙摺り, 瓜文様?, 外面手描き, たこ唐草文様	石狩浜	磁器, 口縁部, 被熱あり
18	皿				両面型紙摺り, 外面花文様	石狩浜	磁器, 口縁部, 被熱あり
19	皿				内面型紙摺り, 外面手描き	石狩浜	磁器, 口縁部, 被熱あり
20	皿				青磁染付, 高台内鉄釉, 見込彫り文様	石狩浜	磁器, 底部, 被熱あり
21	急須				染付に金彩?	石狩浜	磁器, 胴部から底部
22	德利				内面無釉	石狩浜	磁器, 胴部
23	爛德利				内面無釉	石狩浜	磁器, 胴部
24	德利		5.9		畳付に付着物あり, 内面無釉	石狩浜	磁器, 底部
25	德利				高台に染付で圏線あり, 内面無釉	石狩浜	磁器, 底部
26	德利				内面無釉	石狩浜	磁器, 首部
27	コンブラ瓶				内面無釉	石狩浜河口寄り	磁器, 胴部, 波佐見産
28	コンブラ瓶		7.0		内面無釉	弁天町	磁器, 胴部から底部, 波佐見産
29	小皿	9.2	4.1	2.5	見込印判と手描きで菊花文様	弁天町	磁器, ほぼ完形品
30	皿				蓮華状口縁, 銅版転写?	弁天町	磁器, 口縁部, 被熱あり
31	片口?				玉縁状口縁, 土灰釉	石狩浜	陶器, 口縁部
32	焼耐德利		6.6		内面鉄釉	石狩川河口左岸	陶器, 胴部から底部
33	焼耐德利		7.0		内面鉄釉	石狩浜	陶器, 胴部から底部
34	焼耐德利		6.6		内面鉄釉	石狩浜	陶器, 胴部から底部
35	焼耐德利		7.6		内面鉄釉, 外面薬灰釉	石狩川河口右岸	陶器, 胴部から底部
36	焼耐德利		7.0		両面鉄釉	不明	陶器, 底部
37	焼耐德利		6.3		内面鉄釉, 外面薬灰釉	石狩浜	陶器, 底部
38	焼耐德利				両面鉄釉	石狩川河口右岸	陶器, 底部
39	焼耐德利				内面鉄釉, 外面土灰釉	石狩川河口左岸	陶器, 底部
40	焼耐德利		7.6		外面薬灰釉?	石狩浜	陶器, 底部, 胎土が黄褐色
41	焼耐德利	4.9			両面鉄釉	石狩浜	陶器, 口縁部から首部
42	焼耐德利	4.4			両面鉄釉	石狩浜	陶器, 口縁部
43	焼耐德利	4.9			内面鉄釉, 外面薬灰釉	石狩浜	陶器, 口縁部
44	焼耐德利				両面薬灰釉?	石狩浜	陶器, 口縁部, 被熱あり
45	焼耐德利	4.0			両面土灰釉	石狩川河口右岸	陶器, 口縁部から首部, 胎土が黄褐色
46	焼耐德利				両面鉄釉	石狩浜	陶器, 首部から肩部
47	焼耐德利				内面鉄釉, 外面土灰釉	石狩浜	陶器, 首部
48	焼耐德利				内面鉄釉, 外面土灰釉?	石狩川河口左岸	陶器, 首部
49	焼耐德利				内面鉄釉, 外面土灰釉	石狩浜	陶器, 首部から肩部
50	焼耐德利				内面鉄釉, 外面土灰釉	石狩浜	陶器, 首部, 被熱あり?
51	焼耐德利				内面鉄釉, 外面薬灰釉	石狩浜	陶器, 首部
52	焼耐德利				内面鉄釉, 外面薬灰釉	石狩浜	陶器, 首部
53	焼耐德利				内面鉄釉, 外面薬灰釉	石狩浜	陶器, 首部
54	焼耐德利				内面鉄釉, 外面海鼠釉?	弁天町	陶器, 底部
55	焼耐德利				両面土灰釉	弁天町	陶器, 首部
56	甕				両面鉄釉	石狩浜	陶器, 口縁部
57	甕				両面鉄釉	石狩浜	陶器, 口縁部, 上野・高取系か
58	搦鉢				両面鉄釉	石狩浜	陶器, 口縁部
59	搦鉢				両面鉄釉	石狩浜	陶器, 口縁部
60	搦鉢				無釉焼き締め	石狩浜	陶器, 胴部, 備前系
61	搦鉢				両面鉄釉	石狩浜	陶器, 胴部
62	七輪 or 焔炉				口縁部円形	石狩浜	土器(素焼製品), 口縁部
63	不明				蓋を受けるような部分がある	石狩浜	土器(素焼製品)
64	焼耐德利	3.5	7.1	25.8	内面鉄釉, 外面薬灰釉	聚富漁場跡出土品	陶器, 完形品
65	根付		横幅4.2	縦幅2.8	厚さ1.8	石狩浜	鹿角を加工している

